



①制御盤内
②制御盤外形
③CE規格制御盤内
④本社屋上のソーラー発電
⑤加工機械

しらぬいでんき
株式会社 不知火電機



代表取締役社長
菊地 樹志 さん



ニーズを的確に捉え、
高品質・高機能なシステムを提供

当社は社員全員が「挑戦する」を合言葉として頑張っています。お客様からはよく「こんな制御できへんかな?」とか「ほかに断られた」などの相談があります。そのとき当社では制御のみで考えるのではなく機械を含め一体となって考えていく「提案でき、実行する」企業を目指しております。

- 主な事業内容
自動化機械・制御機器製作
- 主な取引先(納入先)
大手自動車メーカー、製紙会社、家電メーカー

住 所 / 〒570-0033
大阪府守口市大宮通1-9-7
TEL / 06-6994-0533
FAX / 06-6994-0536
創 業 / 昭和56年4月
設 立 / 平成元年4月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 18名

<http://www.siranui.com/>

企業のお困りごとを 創意工夫で解決

事業内容と沿革

オペレーティングシステムを強かにサポート

さまざまな企業の自動化・効率化・高速化を実現する同社。もともとは椿本工機(株)のプロジェクト部に所属していた伏見均現会長が独立し立ち上げた。製造現場での自動化や効率化は常に検討されており、現場で日々生まれる顧客の悩みに応じてきた。どれだけ優秀な設備であっても効率的な生産はマシンオペレーターの的確な状況判断と素早い対応力が必要となる。

そのため設備の最大の能力を発揮するために従来マシンオペレーターが行っていた感覚的な作業や作業のコツや勘、作業手順などの人間的判断を制御機器に反映し、顧客の求める設備を構築する。自動車生産設備、製紙ラインなどさまざまな業種・業態より設備設計の依頼が来るため、社内にはさまざまなジャンルに対応できる従業員がいる。過去に経験した自動化・効率化のノウハウを常に生かし顧客の設備を最適化していく。

強み

難題に経験値で応える

顧客の要望はさまざま。依頼主が実際に所有する設備を最適化するために、まずは現場に赴き、どのような設備が必要なのかを徹底的にヒアリングする。自動化・効率化とはいえ、完全無人化することは難しい場合もある。そのようなときはどのような人物がそのラインの担当となってもすぐに使えるように、究極的には全くの素人でも使えるようにとアイデアを巡らせる。そのためには制御機器本体だけでなく、それを覆う筐体などにもちょっとした工夫を加える。必要な作業をする時に使用するスイッチ類は色分けし、不要なときに触らないように注意喚起のための目印をつける。最近では制御機器メーカーだけではなく、パソコン会社とも設計時から入念な打ち合わせを行い、使いやすさを徹底的に追求していく。

最近では昔の機械の更新についても相談されることが多い。そのような現場では図面はおろか、昔を知る担当者もいないといった状況に遭遇する。そのような場合でも過去の経験値をもとに最適化を達成する。

専任体制

専任制で知識も深耕

舞い込む依頼に対しては基本的には特定の従業員が専任で対応する。自動車製造ラインが得意な者、製紙工場のラインを得意とする者など同社にはさまざまな経験値を持つ社員がいる。どのような案件でも過去の経験を生かし、どのような場面でもすぐに対応できるような社内体制になっている。特に自動車製造ラインなどは世界中に点在するため、現地まで赴き現場の要望を反映させる。アメリカ・カナダ・ドイツ・フランスなど手掛けた現場は数知れない。また今まで手掛けてきた案件の中には造幣局や印刷所、汚水最終処理場などでの納入実績もある。

顧客の要望が厳しく、他社で断られた案件も多数引き受ける。また、中には他社が引き受け、途中で放り出すような形で断念した案件すらある。そのような案件は中途半端に作りこまれ、決して適正な組み込みを行っているとは限らない。そのような案件でもイチから見直し、顧客の要望に応える。

今後の展開

従業員の多能工化を目指す

さまざまな案件を専任で行ってきたことから、社員の専門性が高いのが強みではあるが、逆に他分野での応用に欠ける可能性も含む。今後はどの従業員がどの案件を受けようと確実に業務をこなせる体制づくりを目指していく。また、ほとんど職人に近い存在の同社の社員は、各人ごとに設計思想が異なってしまうが、仕事内容の引き継ぎもスムーズに進むように、手がける機械の製作過程も社内ですべて統一していく。

また企業に対する予防保全のメンテナンスもきっちりこなしていく。制御機器にはコンデンサー、スイッチ、電池、ヒューズなどが使用されており、それらの電気的寿命が来てしまえばせっかくの自動化、効率化も意味をなさなくなる。そのためにさまざまな部品の寿命を把握して、更新時期が来そうなタイミングを事前に告知しておき、突然ラインが止まってしまうことを防止し、顧客の不便を事前に解消する。